



上智大学 多文化共生社会研究所主催 第2回公開シンポジウム

—2022 8.27[土]—

医療的ケア児の就学を考える

15:00~17:30 (開場14:30)

医学の進歩に伴い、医療的ケア(人工呼吸器管理や痰吸引など)が不可欠である児童、即ち医療的ケア児が増加し、児とその家族に対する支援に関する法律が2021年6月に公布された。支援の中には、医療的ケア児でない児童等と共に教育を受けられるように最大限の配慮をすることも含まれている。

本シンポジウムでは、医療的ケア児が普通級などに通学する際に課題となることを整理し、どのような配慮や工夫があれば、一つの選択肢として定着するのかについて検討したい。第1部では医療的ケア児の普通級への就学に関する実践例を報告し、続く第2部では、その報告を受けて看護、教育、社会福祉等の視点から討論する。

プログラム

<第1部>実践報告：呼吸器を付けて小学校に行こう！

内納 静子氏 社会福祉法人桐鈴会相談支援事業所管理者(相談支援専門員)

<第2部>公開シンポジウム：医療的ケア児の就学を考える

シンポジスト(敬称略)

田中 美央(新潟大学大学院保健学研究科・准教授)

8年間の臨床経験の後、自治医科大学看護学部助教を経て現職。専門は小児看護。新潟県で「医療的ケア児と親の育ちを支える多職種連携の会」を運営。

菅井 裕行(宮城教育大学教職大学院・教授)

国立特殊教育総合研究所研究員を経て現職。専門は特別支援教育。日本特殊教育学会理事、日本重症心身障害学会評議員。

伊藤 正恵(心身障害児総合医療療育センター・小児看護専門看護師)

重症心身障害児の姉として育ち、助産師・看護師としての臨床経験の後、東京工科大学看護学科にて教育経験を積む。現在は看護相談や地域医療連携の担当主任として障害児とその家族を支えている。

コーディネータ：

久田 満(上智大学多文化共生社会研究所・所長)

東京大学医学部助手、東京女子医科大学看護学部教授を経て、現在上智大学総合人間科学部心理学科教授。2000年~2014年まで「きょうだい児支援サークル連」の顧問。

参加方法

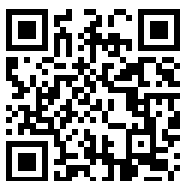
参加費は会場参加・オンライン参加ともに無料
参加登録は下記QRコードもしくはHP

会場参加

会場 上智大学 四谷キャンパス
6号館6-307教室

定員 会場参加150名(先着)

申し込み期限 8月21日(日)



オンライン参加

Zoomウェビナーでの参加
(登録後にリンクをお送りいたします)

定員 なし

申し込み期限 開始直前まで



【後援】あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

問い合わせ

上智大学多文化共生社会研究所
<https://www.inclusivecommunity202041.com/>